

戦前から80年代まで、元首相が残した一大原史料群

明治大学史資料センター所蔵

オンライン版

三木武夫関係資料

編集：明治大学史資料センター



参議院予算委員会で答弁する三木
(外務大臣時代)

第 66 代内閣総理大臣をつとめた三木武夫（1907 ～ 1988）が残した膨大な文書群。外交文書、省庁・党内資料など各種政策資料をはじめ、国会答弁資料、総裁選・選挙関連、講演・演説原稿、日記・手帳・書簡・メモなど、戦前から 80 年代にかけての大量の一次史料で構成され、質量ともに一級の史料群である。

出版・発売元：丸善雄松堂株式会社

「教材としての原史料」を実現するオンライン版

九州大学准教授 中島 琢磨

三木武夫元首相の貴重な文書が、オンラインで読めるようになったことは、政治や外交の歴史に関心を持つ人たちに嬉しいニュースだ。

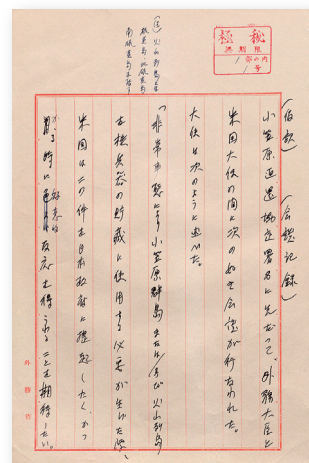
1950年代前半、三木は国民民主党、改進黨の有力政治家として、吉田茂首相率いる自由党と対峙した。戦後史では、吉田や吉田に近い政治家たちの行動が着目されがちだが、三木の視点に立てば、また別の側面から戦後の政治を捉えることができる。たとえば改進黨の結党に関する文書を集めたファイルを読むと、三木たちが自由党の政策にいかに対峙しながら、日本の完全な独立を求めたか、その経緯が分かる。三木たちが論じた革新や進歩主義は何だったのか、後の自民党につながる多様な政策を辿ることができる。

池田勇人内閣期と佐藤栄作内閣期の文書の量は非常に多く、高度成長期の日本政治を知る絶好の資料だ。内政分野では自民党関係、三木派関係、各種法案関係など、外交分野では日米関係、日中関係、ベトナム問題など多岐にわたる。とりわけ外相時代の文書は魅力的だ。当時外務省北米局（アメリカ局）にいた堂之脇光朗氏が、三木外相について、自分で文書にメモを書き入れて部下に渡す細かい人だったと、好意的に評価していたのを思い出す。とくに外相在任中には沖縄と小笠原の返還問題が動いており、重要文書が残っている。返還後の小笠原の核貯蔵をめぐる問題など、「三木武夫関係資料」だけで

しか読めない文書もあり、日本政府の苦心の跡を辿ることができる。

今回、三木が日常の生活のなかで書き留めたり、書き流していたメモ類も公開される。外交文書と違って日付はなく、三木が何を考えながら書いていたのか、解釈しながら読む必要があり、時間はかかる。だが、本人の思考プロセスを直接知ることのできる資料だ。オンライン版の配信により、こうした時間のかかる文書も自分のペースで読めるようになった。

従来アクセスのハードルが高くもっぱら研究者にしか使われてこなかった原史料だが、オンラインで気軽に触れられるようになったことで、大学生にとっても親しみやすい資料となり、授業での教材としての活用も期待できる。もちろん研究資料としても一級であり、既刊の「楠田實資料」や「大平正芳関係文書」との相互補完によって、戦後史研究の深化が飛躍的に進むだろう。



「(会談記録)」〔小笠原返還交渉〕

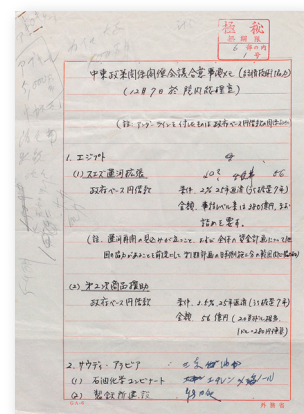
「理想をもったバルカン政治家」の面目 — 中東8カ国への三木使節団派遣

東洋英和女学院大学学長 池田 明史

1973年、第四次中東戦争に際して発動されたアラブ産油諸国のいわゆる「石油戦略」は、日本をパニックに陥れた。アラブ側は日本を含めた非友好国（中立国）に対して、段階的な石油禁輸措置を採り、全体の産油量も削減すると恫喝してきたからである。その衝撃は、日本の高度成長を支えてきた輸入石油が入って来なくなるという経済面での脅威にとどまらなかった。それまでパレスチナ問題については「善意の第三者」を自認してきた日本の姿勢が、アラブ側からは宿敵イスラエルの最大の支援者である米国への追従であって、友好国とは看做されないとの批判を突きつけられたのである。

このような危機の中で、アラブ諸国に対し、石油の対日輸出制限の解除を求める政府特使として白羽の矢が立ったのが田中内閣で副総理兼環境相の任にあった三木武夫であった。三木はすでに、佐藤栄作内閣の通産相、外相を歴任しており、アジア重視を標榜してベトナム戦争の和平仲介に動くなど相対的に米国から距離を置く姿勢を見せていた。「アラブへのアブラギ詣で」とか「ものくれ外交」などと揶揄されつつ、結果としてアラブ諸国から日本の友好国としての認定と産油制限の緩和とを取り付けて帰国した。

本資料は、対アラブ特使派遣の背景や経緯、成果等に関して、外務省など関係省庁・出先機関の公文書や公電類、関連民間企業・団体の各種文書、あるいは三木を含めた個人のメモ・談話・講演録などをほぼ網羅していて、戦後日本外交の画期を成した三木使節団研究の極めて重要な一次史料の集成になっている。そこから浮かび上がってくるのは、「アブラギ」といった卑屈な表現からは程遠い、パレスチナ問題の解決に正面から真摯に向き合おうとする三木の熱情である。その至誠が通じたからこそ、まだごちない日本の自主外交において所期の成果を上げることができた。「理想をもったバルカン政治家」を自任した人間三木武夫の面目躍如といったところであろう。日本政治外交史の学究にとどまらず、広く政治や国際関係の領域の同好の士に、本資料を強く推薦する所以である。



「中東政策関係閣僚会議合意事項メモ（経済技術協力）」
（12月7日於院内総理室）

原史料から見る、三木武夫とその時代

筑波大学教授 竹中 佳彦

1970年代半ば、米国の経済的・軍事的優位が揺らぐ中、石油危機によって世界的なインフレ・不況となり、サミット（先進国首脳会議）が開催されることになる。高度成長が途絶えた日本は、狂乱物価や財政難からの脱出が課題となった。

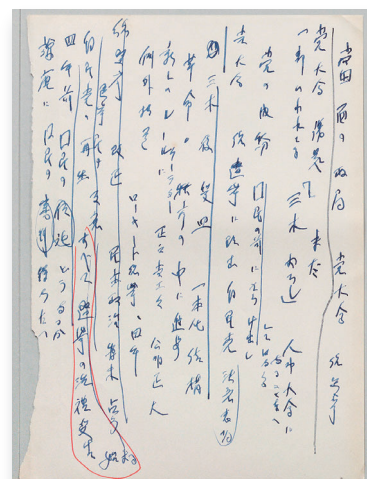
三木は、そのような時代の転換期に組閣し、革新寄りの政策を展開した。福祉を優先し、積極財政をとり、「生涯設計（ライフ・サイクル）計画」を構想し、他方で企業活動の倫理確立のための独占禁止法改正に取り組んだ。またデタント（緊張緩和）下の防衛力のあり方を定め、防衛費に歯止めを設け、武器輸出禁止を拡大した。企業・団体の政治献金の規制を強化する政治資金規正法改正など、政治浄化も目指した。しかし十分な成果を上げられぬまま、ロッキード事件による「三木おろし」、衆院選敗北で退陣することになる。

三木に対する毀誉褒貶は甚だしい。ただ、三木だけでなく、彼の生きた時代を研究するために、「三木武夫関係資料」は有用である。同資料は、数カ所に分散していた資料を三木家が明治大学史資料センターに寄贈したものである。

「第三部 内閣総理大臣期」には公文書も多数ある。行政の情報開示が不十分であり、首相が在任中に得た公

文書が廃棄される実態があることを考えると貴重である。同資料には肉筆のメモや日記もある。1993年、私が、三木家に日記等の私文書があるかを照会したとき、三木は原稿を清書させた後は、いつも草稿を破って捨ててしまっていたので、肉筆の原稿はほとんど残っていないし、日記も書いていないということであった。私が貴重な史料を託すに足る相手とはみなされなかったのだろう。だが結果的に、今回、同センターによってそれらが体系的に整理され、オンラインで閲覧できるようになったことは、学術的に極めて有意義なことである。

明治大学および丸善雄松堂の関係者のご尽力に敬意を表するとともに、本資料を活用した研究が輩出することを期待したい。



三木武夫自筆メモ（当面の政局）

平和外交と政治浄化 — 元宰相の飽くなき目標

北海学園大学教授 若月 秀和

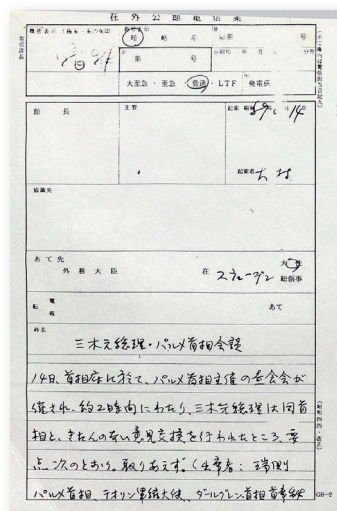
1976年12月に選挙敗北の責任をとって首相を退任した三木であったが、1980年まで三木派の領袖を続け、河本敏夫に派閥後継を譲った後も、議員在職50年を一年後に控えた86年に脳内出血で倒れるまで、首相経験者として、政治倫理の確立に向けた取り組みについて、時の首相たちを手厳しく批判するなど存在感を保った。

首相期以後の収録資料で目につく点は、福田・大平内閣期を中心に外遊資料・サミット関連など外交関係の比重が多いことである。事実、首相経験者として、精力的に外遊を重ねるとともに、1980年代になり東西対立が再燃するなかで、軍縮議員連盟会長として核軍縮にも取り組んでいる。もとより、三木は佐藤内閣で外相を務め、小笠原諸島返還を

実現するなど、外交通を自任していた。しかしながら、約2年間の首相在任中、外交問題で大きな成果は残せなかった。日中平和友好条約と日ソ平和条約の締結を目指すも、自身の権力基盤の弱さや国際情勢の壁に阻まれて、いずれも成就できなかった。また、ベトナム戦争終結を受けて、新たな日本の東南アジア外交を打ち出そうとするも、これも内外の客観情勢の機が熟さず、具体化できなかった。首相退任後も、外交に強い関心を抱き続けたのは、首相在任時の不完全燃焼感によるものではないか。

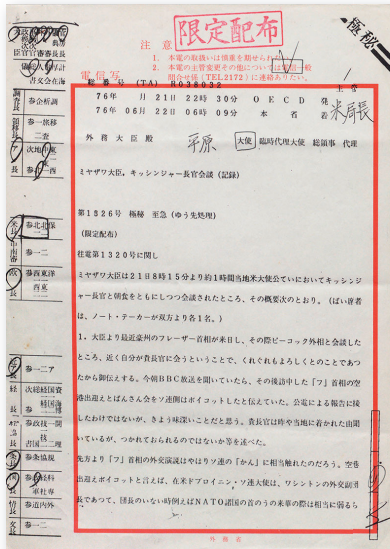
むろん、「クリーン三木」の一丁目一番地ともいえる、「選挙浄化特別措置法要綱」など政治浄化問題に関わる文書も、収録されている。三木は首相として政治資金規正法の改正などを実現するも、自身の目標達成の見地からは道半ばであった。刑事被告人たる田中角栄元首相の派閥は年々膨張を続け、歴代内閣に影響力を及ぼすなど派閥と金権がますます幅を利かす状況に対し、三木は警鐘を鳴らし続ける。

首相在任中の不完全燃焼を抱きつつ、平和外交と政治浄化を抛り所に、権勢を誇る田中とその派閥と対峙し続けた元宰相の行動の軌跡を、本資料は詳らかにしている。いわゆる「角栄本」が氾濫する時勢において、角栄のライバルの視点から、往時の政治を見直す必要性は一層高まっている。



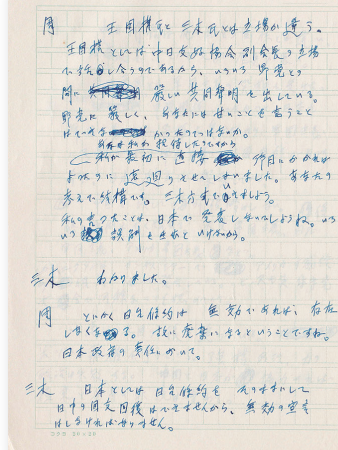
「三木元総理・パルメ首相会談」
1984年8月14日

日米関係

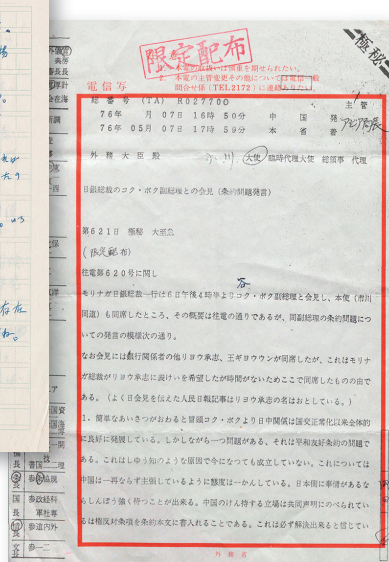


「ミヤザワ大臣、キッシンジャー
長官会談（記録）」1976年6月21日

日中関係

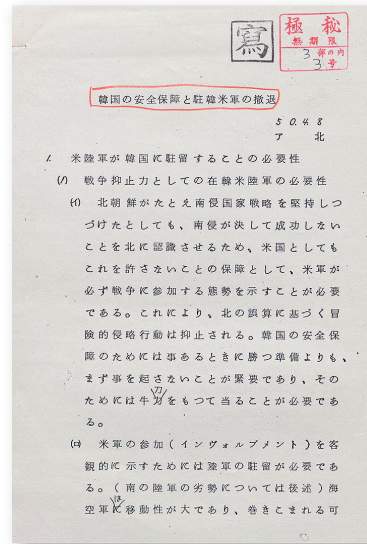


（三木武夫・周恩来会談記録）



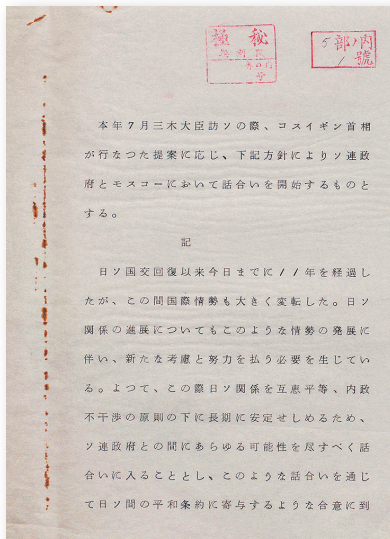
「日銀総裁のкок・ボク副総理との会見
（条約問題発言）」1976年5月7日

朝鮮半島情勢



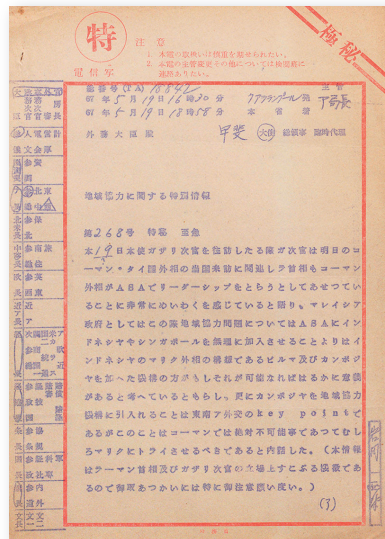
「韓国の安全保障と駐韓米軍の撤退」
アジア局北東アジア課、
1975年4月8日

日ソ関係



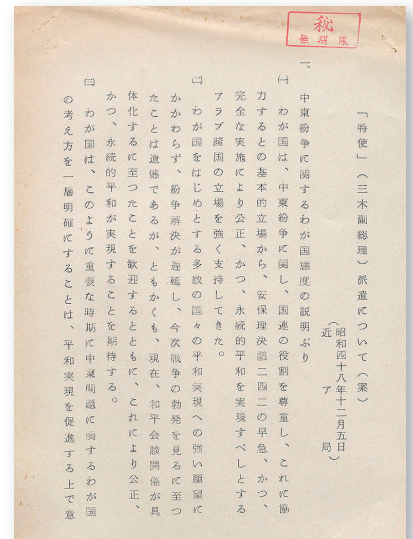
「北方領土交渉方針」1967年

東南アジア



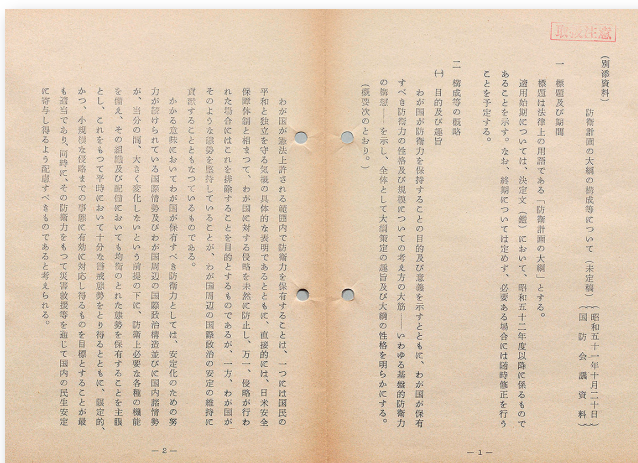
「地域協力に関する特別情報」
1967年5月19日

中東 / 石油危機



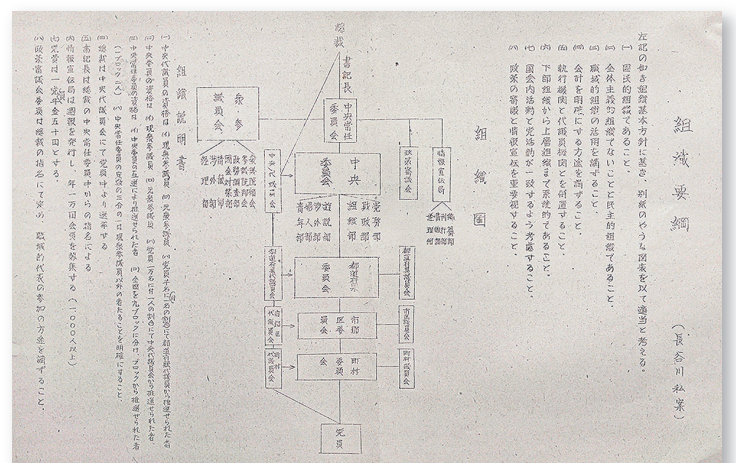
「特使」（三木副総理）派遣について（案）」
近ア局、1973年12月5日

安全保障・防衛問題



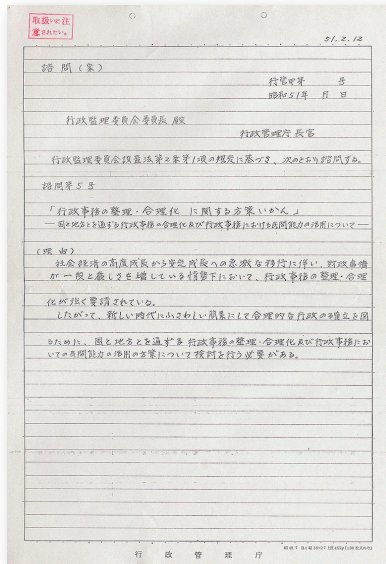
「（別紙資料） 防衛計画の大綱の構成等について（未定稿）」
1976年10月20日

改進黨関係



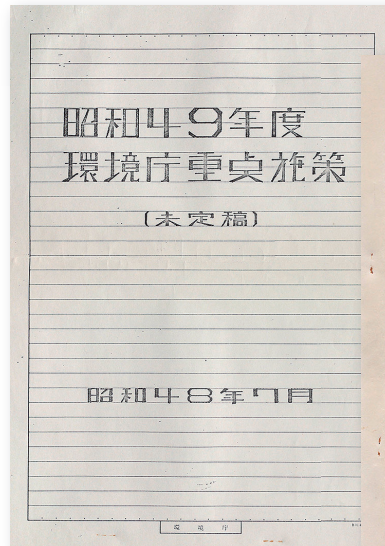
「改進黨 組織要綱」

行財政改革

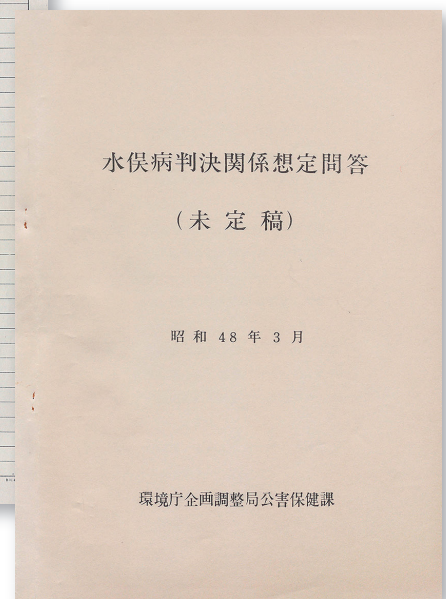


「諮問 (案)」1976 年 2 月 12 日
 (「地方行財政について (行政改革)」所収)

公害・環境問題

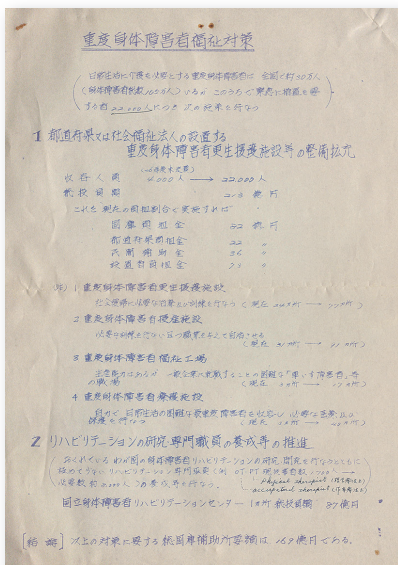


「昭和 49 年度環境庁重点施策
 (未定稿)」1973 年 7 月



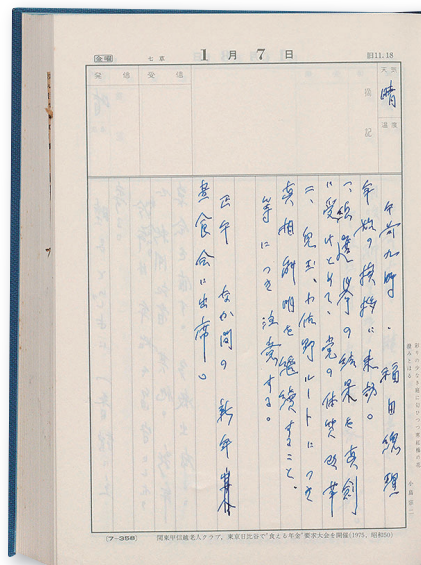
「水俣病判決関係想定問答 (未定稿)」
 環境庁企画調整局公害保健課、1973 年 3 月

社会保障・社会福祉



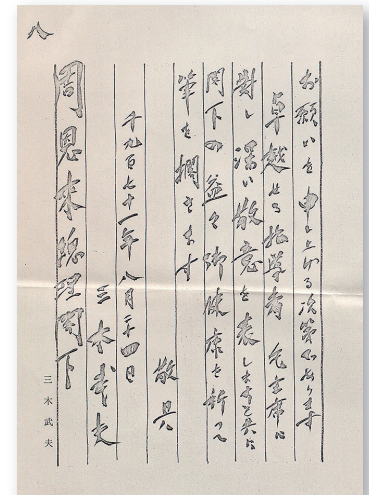
「重度身体障害者福祉対策」

日記



三木武夫自筆日記 (1977 年)

書簡



周恩来宛書簡コピー、1971 年 8 月 24 日

オンライン版 三木武夫関係資料

戦前の三十歳での議員当選にはじまり、自民党幹事長・政調会長など党内の要職をつとめ、経済企画庁長官、科学技術庁長官、通産大臣、外務大臣、副総理兼環境庁長官を歴任、第 66 代内閣総理大臣をつとめた三木武夫 (1907 ~ 1988) が残した一大文書群。

<収録トピック例>

- 第一部：改進黨結成、池田総理訪米、三木外務大臣訪米、佐藤総理訪米、小笠原・沖縄返還交渉、三木・周恩来会談、日韓定期閣僚会議、ヴェトナム戦争、東南アジア開発閣僚会議、ASPAC
- 第二部：田中総理訪米、日中国交回復、石油危機・三木中東特使、四次防関係、日本列島改造、水俣病関係
- 第三部：三木総理訪米、日中平和友好条約締結交渉、ランブイエ・サンファンサミット、核拡散防止条約 (NPT)、「防衛計画の大綱」、政治資金規正法改正・公職選挙法改正、独占禁止法改正、スト権スト、ライフサイクル計画、ロッキード問題
- 第四部：「選挙浄化特別措置法要綱」関連、国際軍縮促進議員連盟、ブランド委員会、パルメ委員会、サミット関係

オンライン版 三木武夫関係資料

編集：明治大学史資料センター

解題：信夫隆司（日本大学教授）、村上一博（明治大学教授）、山泉進（明治大学名誉教授）、小西徳應（明治大学教授）

全四部 ￥2,400,000（税別）

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター

完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>

内容構成 / 分売価格

第一部 池田勇人・佐藤栄作内閣期（1960年～72年）

価格 ￥600,000（税別）

池田・佐藤内閣期の資料を中心に、戦前から岸内閣期までの資料も収録。池田訪米記録や小笠原・沖縄返還交渉の極秘資料、1972年4月の三木中国訪問時の周恩来との会談資料も含む。ヴェトナム戦争をはじめ当時のインドシナ情勢をつたえる外交資料も充実している。

第二部 田中角栄内閣期（1972年～74年）

価格 ￥500,000（税別）

石油危機、それを受けて三木が派遣された中東特使関係の資料を収録。田中内閣期の環境庁長官をつとめたことを反映し、水俣病をはじめ公害・環境問題関連の資料も充実している。四次防衛関係資料や日本列島改造計画関連の資料も含む。

第三部 内閣総理大臣期（1974年～76年）

価格 ￥800,000（税別）

政界を揺るがしたロッキード事件の極秘資料、初のサミットとなるランブイエ、続くサンファン・サミットの資料や、三木・フォード会談資料を収録。独占禁止法改正、政治資金規正法改正、日中平和友好条約締結交渉や朝鮮半島情勢、核拡散防止条約（NPT）批准問題、「防衛計画の大綱」関連の資料も含む。

第四部 総理退任以後（1976年～88年）

価格 ￥500,000（税別）

総理退任後も、派閥の領袖として影響力を保持した三木。福田・大平内閣期の外遊資料やサミット関連に加え、大平首相に提出した「選挙浄化特別措置法要綱」に代表される政治改革・政治倫理関連、国際軍縮促進議員連盟会長に就任するなど、晩年に注力した軍縮・平和関連資料も充実。

*収録内容は予告なく変更の可能性がございます。

好評発売中

近現代史料データベースは横断検索が可能です

オンライン版 大来佐武郎関係文書 日記・手帳・ノート 1936-1993

価格 ￥400,000（税別）

戦後を代表するエコノミスト・経済官僚、大来佐武郎（1914-1993）の未公開の日記、手帳、ノート 200冊以上を収録。1930年代から90年代まで、大来がそれぞれの要職で参加した国内外の会議要録をはじめ、海外出張時の詳細なスケジュール、各国要人との会談内容等が丹念に記された第一級の史料群。

オンライン版 楠田實資料（佐藤栄作官邸文書）

全2部 価格 ￥800,000（税別）

オンライン版 大平正芳関係文書

価格 ￥400,000（税別）

オンライン版 矢部貞治関係文書（原本：政策研究大学院大学図書館）

価格 ￥400,000（税別）

オンライン版 矢部貞治関係文書 補遺（原本：矢部家所蔵、衆議院憲政記念館寄託）

価格 ￥270,000（税別）